



『昭和北野大茶湯』『徳雲』『瓶史』『雲中菴茶会記』他より

館蔵品により茶書の歴史を通覧するシリーズのパートⅧでは、昭和前期の茶湯の状況を考察致します。

茶を趣味とするブルジョア、後世近代数寄者と呼ばれる人々の活躍によって広汎な普及を見た茶湯界では、昭和に入ると茶湯研究も精緻化し、盛んになりました。関係の雑誌も陸続と発刊、北野大茶湯350年記念茶会が開かれる昭和11年(1936)を目指し、前年には創元社版『茶道全集』全十五巻が刊行される等、豊かな成果があった時代でした。

とりわけ昭和4年(1929)は茶湯研究史上重要な年で、明治期に英文で書かれた岡倉天心(1862~1913)の『茶の本』が翻訳されて初めて国内に行き亘った他、高橋梅園(1868~1946)の『茶道』が出版され、西欧的な学問の方法による茶湯研究が始まりました。更には、貴志彌右衛門(1882~1936)によって雑誌『徳雲』が創刊され、アカデミズムと茶湯の交流が図られました。彌右衛門は、政財界の富裕な数寄者とは別に、流儀の茶とは異なる独特の数寄を構想した知識人の一人で、他にも『瓶史』を発行した花道家・西川一草亭(1878~1938)、民芸の提唱者・柳宗悦(1889~1961)等が登場、茶湯を分析して知識として組み立て直し、教養を求める国民に受け渡すという仲介の役を果たしました。

昭和十年前後になると、益田鈍翁(1847~1938)、高橋箒庵(1861~1937)等が他界、茶湯界に君臨していた近代数寄者達は、徐々に本流から外れて行きます。税制が変わる等経済的な事情もありますが、数寄者の衰退は、取りも直さず自立的で個人的であった明治精神の衰退でした。帝国主義日本は、自由競争的なものを切り捨ててファッション化、第二次世界大戦へまっしぐらに向かっていました。こうした時代の不気味な動きを余所に高まりを見せたのが、家元の茶でした。

本展では、戦争と戦争の狭間にあつて茶湯の隆昌を物語る茶書約50点を展覧致します。また後期展では、同じく約50点の茶書で近代数寄者から大衆へと移行した戦中戦後の茶を振り返ります。現代の茶湯に大きな影響を与えた人々の軌跡をご覧ください。

2006年4月3日(月) - 7月24日(月)

後期展: 館蔵茶書の歴史Ⅷ 戦中戦後 9月1日(金) - 12月7日(木)

- 開館時間 午前10時~午後1時 午後2時~午後4時30分(入館は4時まで)
- 休館日 土曜(但し、第4土曜・4/22、5/27、6/24、7/22は開館)、日曜、祝日
- 入場料 300円
- 会場 齋田記念館 1F 展示室

齋田記念館

〒155-0033 東京都世田谷区代田 3-23-35 TEL 03-3414-1006

小田急線・世田谷代田駅南口下車徒歩7分又は東急世田谷線・若林駅下車徒歩10分

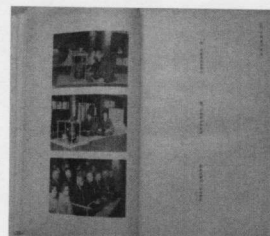


◇展示作品目録◇

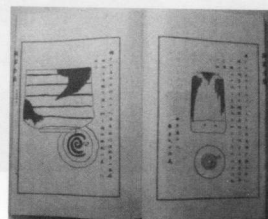
- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 『茶の本』 | 活字本・一冊 |
| 2. 『茶道』 | 活字本・一冊 |
| 3. 『徳雲』 | 活字本・二十冊 |
| 4. 『篠園會々記集 第三』 | 活字本・五冊の内一冊 |
| 5. 『瓶史』 | 活字本・三十六冊 |
| 6. 『茶心花語』 | 活字本・一冊 |
| 7. 『白鶴帖』 | 活字本・九冊の内五冊 |
| 8. 『山中定次郎傳』 | 活字本・一冊 |
| 9. 『臨幸記念名家秘藏品展覽會圖録』 | 活字本・一冊 |
| 10. 『茂久路具』 | 活字本・一冊 |
| 11. 『昭和茶道記』 | 活字本・一冊 |
| 12. 『近世道具移動史』 | 活字本・一冊 |
| 13. 『箒のあと』 | 活字本・二冊 |
| 14. 『趣味ぶくろ』 | 活字本・一冊 |
| 15. 『財團法人松殿山莊茶道會役員會員名簿』 | 活字本・一冊 |
| 16. 『馬越恭平翁傳』 | 活字本・一冊 |
| 17. 『茶道讀本』 | 活字本・一冊 |
| 18. 『天正昭和北野大茶湯 古今茶道の對照』 | 活字本・一冊 |
| 19. 『昭和北野大茶湯』 | 活字本・一冊 |
| 20. 『昭和北野大茶湯』 | 活字本・二冊 |
| 21. 『遠州葺帳凶鑑』 | 活字本・二冊 |
| 22. 『碧雲臺展観』 | 活字本・一冊 |
| 23. 『高麗茶碗次第録』 | 活字本・一冊 |
| 24. 『自叙益田鈍翁傳』 | 活字本・一冊 |
| 25. 『會記』 | 活字本・十種 |
| 26. 『雲中菴茶會記』 | 写本・二十冊 |
| 27. 『茶道三年』 | 活字本・三冊 |
| 28. 『遠州公年譜 附小堀家略系』 | 活字本・一帖 |
| 29. 『遠州公小傳』 | 活字本・一冊 |
| 30. 『茶道四祖傳書』 『註解 茶道四祖傳書』 | 複製・四冊、活字本・一冊 |
| 31. 『評註 津田宗及茶湯日記』 | 活字本・二冊 |
| 32. 『茶道』 | 活字本・十五冊 |
| 33. 『隨筆松花堂』 | 活字本・一冊 |
| 34. 『千利休』 | 活字本・一冊 |
| 35. 『松風清社煎茶方式』 | 活字本・二冊 |
| 36. 『建築寫真類聚 卷三 茶室建築』 | 活字本・一冊 |
| 37. 『数寄屋建築』 | 活字本・一冊 |
| 38. 『陶器全集』 | 活字本・三十冊の内十冊 |
| 39. 『日本古陶銘款集』 | 活字本・六冊 |
| 40. 『陶工永樂傳 和全翁詳傳』 | 活字本・一冊 |
| 41. 『釜山釜ト對州釜』 | 活字本・一冊 |
| 42. 『工芸 六七』 | 活字本・一冊 |
| 43. 『茶人世代』 | 活字本・一冊 |
| 44. 『茶道爐邊夜話』 | 活字本・一冊 |
| 45. 『趣味乃茶道 茶席料理と茶道の約束』 | 活字本・一冊 |
| 46. 『茶禪つれつれ草』 | 謄写版印本・一冊 |
| 47. 『茶塵抄』 | 活字本・一冊 |
| 48. 『風興集』 | 活字本・一冊 |
| 49. 『茶道問答集』 | 活字本・一冊 |
| 50. 『和比』 『茶道雜誌』 | 活字本 |
| 51. 『焼もの趣味』 | 活字本 |
| 52. 『清閑』 | 活字本 |
| 53. 『庭園と風光』 | 活字本・二十八冊の内二十六冊 |



3. 『徳雲』



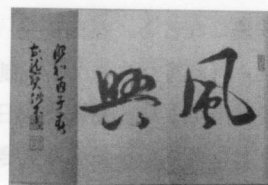
20. 『昭和北野大茶湯』



38. 『陶器全集』



40. 『陶工永樂傳 和全翁詳傳』



48. 『風興集』



50. 『和比』 『茶道雜誌』

*作品の展示は必ずしも作品番号順ではありません。また都合により展示作品が変更になる場合があります。